

Newsletter

Vol.49 2023.2.28

日本養護教諭養成大学協議会

日本養護教諭養成大学協議会
ニューズレターVol. 49
会 長 遠藤伸子 (女子栄養大学)

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ 目 次 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

協議会副会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	トピックス「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議」・・・・・・・・・・・・・・・・	4
2022年度総会・臨時総会報告・・・・・・・・・・	2	各委員会活動報告・養成教育セミナーのお知らせ・・・・・・・・	5
養護教諭養成セミナー報告・・・・・・・・・・	3	協議会活動報告・事務局からのお知らせ・・・・・・・・	6
リレー連載 教職大学院での養成・・・・・・・・	3		



副会長あいさつ

副会長 池添志乃
(高知県立大学)

立春を過ぎ、本格的な春の訪れが待たれる頃となりました。会員校の先生方にはいつも大変お世話になっております。

養護教諭の資質能力の向上に関する調査研究が進められる中、あらためて専門職としての養護教諭に求められる資質能力、知とは何だろうか、と考えます。実践の場で用いている知には、経験知 (empiric knowing)、倫理知 (ethical knowing)、個人知 (personal knowing)、審美知 (aesthetic knowing) があり、4つの知は相互に関連しながら実践を形づくっていくと言われていきます (Carper, 1978)。経験知とは、理論や研究によって導かれた科学的知見であり、それらの科学的な知を基盤にしながら倫理観、感性をもち、自己を振り返りながら、実践を豊かに発展させていくことを示しています。いわば実践の中で、獲得してきた様々な科学的知見を相互に関連づけ、活用することによって知が深まり、実践が豊かになると捉えることができます。獲得した知が実践にどのように役立つのか、どのような実践のエビデンスになるのかを考えながら発展させていくことによって、応用性のある知となっていくと思います。説明責任が重視される学校現場において、科学的なエビデンスに基づく実践が不可欠であり、今後さらに科学的な知を可視化して実践のなかで示していくことが養護教諭にも求められてくると思います。

また、これらの4つの知に加え、解放知 (emancipatory knowing) が5つ目の実践知として示されました (Chinn& Kramer, 2017)。解放知とは、社会、文化等の現状に気づき、批判的に熟考する能力のことであり、そうした状況下において権利が脅かされている人はいないかに気づき、行動する力とも捉えられています。

近年の社会状況の変化や家庭力、地域力等の変化を背景に、子どもを取り巻く環境、健康課題は複雑化、多様化しています。学校保健活動を行っていくうえでも、子どもを取り巻く社会文化的な現状、変化について批判的思考をもって捉えながら、子どもの成長発達や健康に及ぼす影響を見極め、支援していくことが一層、重要になってきていることを実感します。その実践力こそが、解放知にもつながるものだと考えます。また批判的思考とは、既存の知識や現象の捉えをそのまま受け入れるのではなく、本当にそうだろうか、どのような意味があるのだろうかと問いを発し、自問しながらみる視方です。単に否定するのではなく、より多面的に建設的に物事を考えていこうとする考え方です。そうしたことから、実践において専門職に求められる知は何か、と考えると、一つの専門領域で獲得できるものではなく、多様な学問領域における知を統合することによって成し得るのだと思います。様々な学問領域の先生方と交流できる本協議会は、私自身にとっても専門職者としての知をより豊かなものにしていく場があります。同時に、ここでの学際的視点からの学びや得た知見を学生の豊かな実践力の育成につなげ、教育に活かしていくことが重要であると考えます。会員校の先生方との交流をとおして、養護教諭に求められる資質能力は何か、問い続け、探求していくことができればと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2022年度総会/臨時総会を終えて

総会・臨時総会を終えて
会長 遠藤伸子（女子栄養大学）

新型コロナウイルスの第7波に見舞われ、対面予定であった2022年度の総会も前年度に引き続き、オンライン開催となりました。しかし多くの会員校の先生方にご参加戴き、無事終了することができました。また、総会後のアンケートも出席者の9割を超す方々にご協力を戴き、今後の活動方針を検討する上で大変貴重なご意見を頂戴致しました。心より感謝申し上げます。

総会後のアンケートでは、2つの講演とも大変勉強になったという多数のご意見に加え、ワークショップは、「反転授業がどのようなものか、また、その効果や方法を理解することができた」、「知識を詰め込む授業から脱却したいと考え悩んでいたのが参考になった」等の理由で、96%から「授業に取り入れたい」と回答を戴くなど大変好評でした。一方で、次年度の総会やフォーラム・セミナーの開催については、参加のしやすさや新型コロナの予測が不透明というような理由で次年度もオンライン開催を望む声が半数を超えたため、メールによる臨時総会を開催し、ご意見をうかがうことにしました。

その結果、108校中100校の承認により、2023年度はオンライン開催に変更することに致しました。なお、同様に戴いたご意見についても臨時総会にて会員校のニーズを確認し、過日ご報告させて戴いたように変更することに致しました。今後も会員校の皆様へのニーズに沿った協議会運営を行いたいと思っておりますので、ご意見ご支援を戴けますようお願い申し上げます。

2022年度総会・臨時総会報告
副会長 池添志乃（高知県立大学）

2022年度の総会は、9月9日（金）にオンラインにて開催いたしました（議決権を有する会員校135校のうち参加93大学、委任状28大学）。

遠藤会長より開会の宣言がなされ、昨年度に引き続き、コロナ禍でのオンライン開催という試みの中、多くの会員の方々にご参加いただけたことに感謝が述べられました。総会議長として、下村淳子先生（愛知学院大学）、成川美和先生（鎌倉女子大学）が選出され、以下の議題が審議並びに報告されました。投票はzoom機能を用いて行い、委任状を含め、過半数を超えた場合に承認いたしました。

- 議題1 2021年度事業報告：遠藤会長より報告され、承認されました。
- 議題2 2021年度決算報告：松枝理事より報告され、承認されました。
- 議題3 2021年度監査報告：中西監査委員、西岡監査委員により報告され、承認されました。
- 議題4 2022年度事業（中間）報告：遠藤会長より報告され、承認されました。
- 議題5 2022年度修正予算（案）：松枝理事より提案され、承認されました。
- 議題6 2023年度事業計画（案）：遠藤会長より提案され、承認されました。
- 議題7 2023年度予算（案）：松枝理事より提案され、承認されました。

2022年度講演「学校保健に関する最新情報等について」

講師 松崎美枝氏（文部科学省健康教育・食育課健康教育調査官）

学校保健を取り巻く動向と課題について、詳細にお話しいただき、改めて養護教諭養成について深く考えることができました。

いまだパンデミックである新型コロナウイルス感染症に関して、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」等は最新の知見に基づき随時改訂されていることから、常に最新の知識を理解する必要があります。学校における新型コロナウイルス感染症の感染状況を把握し、学校全体で共通理解を図るために、「学校における感染症対策実践事例集」等の活用が望ましいことが示されました。

本人および家族が健康診断情報を時系列で簡便にでき、日常生活における個人の行動変容や健康増進につながる学校健康診断情報のPHR（Personal Health Record）への活用についても理解を深める必要があります。また、養護教諭として、近年の児童生徒の近視実態について明らかにし、効果的な対応と予防に努めなければならないことが考えられました。アレルギー疾患や腎疾患・心疾患等の疾病の管理と予防について、児童生徒が可能な限り教育活動に参加でき、安心して学校生活を送ることができるよう学校全体で取組まなければならない、養護教諭の果たす役割は大きいといえます。

また、養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議での検討事項や養護教諭を取り巻く現状から、養成・採用・研修の充実について、新しい知見を得ることとなりました。子供の心身の健康を担う養護教諭等の業務支援の充実に関することも大変興味深い内容でした。

（文責 今野洋子）

養成教育セミナー報告

FD検討委員会委員長
鎌塚優子（静岡大学）

2022年度養成教育セミナーは、令和の日本型学校教育として求められている「個別最適な学び」の実現に向けた一つの方策として、反転授業を活用し、会員の授業実践のスキルアップを図ることを目指し開催致しました。

日時：2022年9月9日（金）13:00～16:20

開催方法：オンライン開催

テーマ：反転授業を設計する

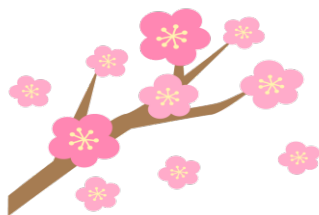
<当日の流れ>

- ①講話：本会のFD委員会の委員である川越明日香氏から、授業設計の基礎や評価、具体的な反転授業の設計についての説明がありました。
- ②演習：学生に主体的で深い学びを提供するために、養護教諭養成科目である3つの授業科目（養護概説、健康相談活動、学校看護学）を取り上げ、グループごとに授業設計を行いました。
- ③全体共有：科目ごとに代表して3グループから作成した反転授業の内容を報告いただき全体で共有しました。



セミナー後、設計した各グループの授業は、メールにて会員に共有いたしました。事後アンケートでは、回答者全員が充実したセミナーであったこと、約8割が授業に取り入れてみたいと回答してくださいました。また、反転授業を設計する際の具体的なイメージをもつことができたこと、授業外学修を設計すること、反転授業の機能と効果的な活用を具体的に理解することができた等感想をいただき、概ねセミナーの目的を達成することができたと思います。

多くの会員にご参加いただきありがとうございました。また、進行や記録をご担当いただきました先生方には、心より感謝申し上げます。



新：リレー連載！
教職大学院における養成



今回から、各地の教職大学院における養護教諭養成についてご執筆いただくことになりました。

第1回は岡山大学です！

課題をマネジメントする実践力向上をめざして

松枝睦美（岡山大学）

カリキュラムについては、第45号に掲載していただきました。今回は実習を中心に紹介します。

新卒生は、1年次に3つの実習を行います。まず『教職大学院ポートフォリオ養護教諭版』で、自己の養護実践力を把握、実習前の目標設定、実習後の振り返りを行います。並行して[課題発見実習]で把握した学校課題を科目[教育実践研究(課題発見)]と連動しながら自己課題と関連させて目標を設定します。そして[課題解決実習][課題探究実習]と[教育実践研究(課題解決)(課題探究)]で自己課題の克服を学校解決に繋げる実践研究に取り組みます。実習中は、課題の取り組み状況を中心に、指導教員、同じ実習校の他教科の新卒生、メンターの現職生、実習校の指導教員と話し合い、実践報告や次の活動にむけて助言を受ける時間を設けています。

現職生は[課題分析実習][課題検証実習]の2つの実習を行います。現任校の状況をふまえ、時期は自ら計画します。科目[教育実践研究(課題分析)(課題提案)(課題検証)]と連動しながら現任校や地域の課題分析、明確化、解決策提案を行い、その計画に基づいて実践を行い検証します。専任教員の指導体制に加え、現任校の管理職や所管の教育委員会とも熟議を重ねます。そうすることで、自身の養護実践力の高度化だけでなく、子供および学校や地域の課題解決の一般化に役立てることを目指します。

さらに、実習や実践の経験を理論と往還させることも大切にしています。これらの実習をふまえて養護教諭・幼稚園教諭・特別支援教育教諭・教科や職種、職能発達段階の異なる新卒生と現職教員生とが同じ授業を履修します。力量形成は個人の学びだけでなく、ともに学ぶことで、1つの教育事象をさまざまな視点から交流し、異なる見方や考え方を共有し課題の解決に向け展開されている実践に参画するための資質や能力を高め合うことで獲得できます。その一例として、科目[学校保健・学校安全とリスクマネジメント]では、チームを組み、危機管理の事例展開や教員研修の立案と評価を実施します。

このように科目の中で実習で得た経験やイメージを自らがチーム学校の一員として意識する場面を通して、総合的に、課題解決に資する分析力・解釈力や企画力・提案力とともに実践展開力の高度化をめざしています。

各委員会報告

養成制度検討・ カリキュラム検討委員会報告

委員長 大川尚子（京都女子大学）

本検討委員会では、協議会独自の「養大協版コアカリ2020」を活用することで、養護教諭の資質の担保につながると考え、今期の検討委員会の活動は、コアカリキュラムの効果的な活用方法を検討することを目標としています

今期の研究テーマを、「教職課程修了時における養護教諭としての資質・能力に関する一考察—養護教諭養成課程コアカリキュラム『養大協コアカリ2020』を活用して—」とし、教職実践演習を履修する4年生を対象に、授業の後半に調査し、現在、集計・分析中です。

養成系の違いに関わらず、養護教諭を目指す学生が十分学んだことは何か、学習が不足していることは何か、明らかにしたいと考えています。

また、来年度の養成教育セミナーで、同じテーマで、全体会として講演会を、分科会としてワークショップを予定しています。現在、検討委員会で、計画をしているところです。「養大協版コアカリ2020」の普及に向けて、活用の結果を報告し、他大学でも活用拡大をしていただけるようなセミナーを目指しています。ぜひともご参加をお待ちしています。

広報・渉外委員会報告

亀崎路子（杏林大学）鈴木裕子（国士舘大学）

今年度からニューズレターは年2回発行となりました。7月にお届けした第48号では、定番の記事のほかに新規入会大学3校のご紹介と、「会員校だより」として3つの会員校からご寄稿をいただきました。今回は新たに始まったリレー連載「教職大学院における養成」、養成にかかわるトピックスとして文部科学省の調査研究協力者会議の内容を取り上げました。ご感想やご意見をお寄せいただければ幸いです。

ホームページでは、総会や役員会・委員会の活動報告等をできるだけ早く掲載するようにしています。お役に立てる情報を発信できるよう改善に努めてまいります。こちらでも会員校の皆様からのご要望やご意見をお待ちしております。

ファカルティ・ディベロップメント (FD) 検討委員会報告

委員長 鎌塚優子（静岡大学）

1. 会議報告

第2回委員会

日時：2022年6月1日(水)11:30～12:30 (オンライン)

出席者：鎌塚、川越、齋藤、出口、西岡、三森

内容：オンデマンド型研修コンテンツ動画の検討

第3回委員会

日時：2022年8月12日(金)11:10～12:30 (オンライン)

出席者：鎌塚、川越、齋藤、出口、西岡、三森

内容：養成教育セミナー運営企画の係分担、記録者ファシリテータについて

第4回委員会

日時：2022年8月27日(土)10:00～12:15 (オンライン)

出席者：鎌塚、川越、出口、西岡、三森

内容：養成教育セミナーのグループ分け、運営

第5回委員会

日時：2022年9月8日(木)15:00～17:00

場所：東京 出席者：鎌塚、出口、西岡、三森

内容：養成教育セミナーのリハーサル

第6回委員会

日時：2022年10月26日(水)16:30～18:00(オンライン)

出席者：鎌塚、川越、齋藤、西岡、三森

内容：①動画コンテンツについて（教育方法・評価）②ワークショップについての検討

第7回委員会

日時：2022年12月22日(木)9:00～10:15(オンライン)

出席者：小川、鎌塚、川越、齋藤、三森

内容：①動画コンテンツの内容検討②ワークショップ企画案、参加申し込みフォームの検討

2. 活動内容

1) 研修プログラムの構築

(1) オンデマンド型の研修コンテンツの配信

- ①授業設計②教育方法③学修評価④教育技法
- ⑤学生支援（ホームページ上に掲載予定）

2) 反転授業の推進

- (1) 養成教育セミナー開催：2022年9月9日（金）
- (2) ワークショップの開催

日時：2023年3月13日（月）13:30～16:30

会場：新大阪丸ビル別館

養成教育セミナーご参加の皆様からのご要望により、続編として反転授業のワークショップを開催いたします。新年度に向けて、教育効果を向上させる技術を学び、実際に参加者同士がディスカッションしながらワークを行うことで、相互に学び合い、情報共有する時間にしたいと思います。

トピックス

「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議」の議論の取りまとめが公表されました

標記会議の議論の取りまとめが2023年1月17日に公表されました。

同会議委員で、日本養護教諭関係団体連絡会会長の三木とみ子氏にご寄稿をお願いしました。

1. 協力者会議の形式等

文部科学省における養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議（以下協力者会議）は、令和4年5月～12月まで計5回公開開催された。委員は、座長（広島文化学園大学学長）、養護教諭関係者3名、栄養教諭関係者3名、行政及び学識経験者各1名で構成された。養護教諭関係者は、小林氏（全国養護教諭連絡会会長）三木（日本養護教諭関係団体連絡会会長）、弓倉氏（(財)日本学校保健会専務理事）であった。

2. 協力者会議の6つの論点

令和の日本型学校教育に求められる役割、指標を踏まえた研修の方策、ICT活用能力の向上、生涯学習の充実、日常的な資質能力の機会の充実、オンラインを活用した研修の充実の6つの論点で議論された。

3. 「議論の取りまとめ」等の内容

「議論の取りまとめ」は、令和5年1月17日に、本文と関連の別添資料3点が公表された。養護教諭の課題として以下の4点をあげ、その課題毎に「現状」と「考えられる検討の方向性」について議論された。

- (1) 求められる役割（職務の範囲）の明確化
- (2) 資質の向上に関する指標」を基軸とした養成と採用・研修の接続、連携
- (3) 新たな教員研修制度下における実効性のある研修機会の確保
- (4) 職務遂行のインフラとしてのICTの積極的な活用

(1)の養護教諭の役割（職務の範囲）については、学校現場の現状として概ね以下の5点をあげ、養護教諭の専門性に基づく独自の役割と働き方改革の方針を踏まえ、他の教職員と役割分担すべきと指摘した。

◇保健管理

- ・救急処置、健康診断、健康観察、疾病の管理予防、学校環境衛生管理

◇保健教育

- ・各教科等における指導への参画

◇健康相談及び保健指導

- ・心身の健康課題に関する児童生徒等への健康相談
- ・健康相談等を踏まえた保健指導

◇保健室経営

◇保健組織活動

平成31年中教審答申の「標準的な職務の例及びその遂行に関する要綱の参考例」をもとに養護教諭の標準職務も早急に明確化するとされた。

(2)の「資質の向上に関する指標」を基軸とした養成と採用・研修の接続、連携は、教育公務員特例

法により任命権者が策定する「資質の向上に関する指標」及び「教員研修計画」、令和5年度から発足する「研修等に関する記録」等を踏まえ、研修サイクルの実質化を提言した。「指標」は、教員の自己研鑽に当たっての活用と「教員研修計画」に反映すべきとし、その作成は、教育委員会等と大学等が連携し養成段階において大学の授業に活用することを提言した。コアカリキュラム（以下コアカリ）は、教育系、看護系等多様な養成があるため「養護に関する科目」のコアカリを作成し、初任時において養護教諭に求められる資質能力を担保すべきとの意見と、保健師や看護師等の基礎資格や修得単位も違うので、コアカリで資質能力を担保できるとは限らないといった指摘を踏まえ、日本養護教諭養成大学協議会作成の養護教諭養成課程コアカリを参考に、今後議論が必要との指摘があった。

(3)の新たな教員研修制度下における実効性のある研修機会の確保については、改正教育公務員特例法に基づく新たな研修制度への移行と養護教諭に求められる役割を踏まえた業務を整理し、研修に参加できる物理的な時間的余裕を確保すべきとした。

「別添1」の求められる役割（職務の範囲）の明確化では、次の10項目を挙げた。

- ①救急処置 ②健康診断 ③健康観察 ④疾病予防
- ⑤学校環境衛生 ⑥各教科等における指導への参画
- ⑦心身の健康相談 ⑧健康相談を踏まえた保健指導
- ⑨保健室経営 ⑩保健組織活動

このうち①②④⑦⑧⑨⑩は養護教諭が中心となるもの、それ以外は他の教職員との役割分担と整理された。国は今後、標準職務を設定するものとする。

今回の議論は、先の論点の資質能力向上が中心であり、養護教諭の配置基準等は議論には至らなかった。今後、職務の標準化、改正教特法による新たな研修制度による研修計画の作成等を踏まえた研修の在り方、校長等の管理職の意識の啓発、「指標」を軸にした養成・採用・研修の接続、多様な養成機関の資質を担保する養成コアカリの検討等の課題がある。関係機関での議論の活発化及び貴協議会の役割に期待したい。

ここでは紙面の関係で特に養護教諭の職務の明確化及び養成教育を中心に述べた。文科省HPに全資料及び各回議事録が公表、日本養護教諭関係団体連絡会HPに関係記事を掲載している。

<https://jytaal.org/news/r50123kaigi/>

協議会活動報告

第2回役員会

日時：2022年7月3日(日)13:00～14:40 (オンライン)
＜出席者＞遠藤、大川、亀崎、鎌塚、鈴木、竹鼻、松枝、三森(記録：大川)
＜協議事項＞①2022年度総会、養成教育フォーラム、養成教育セミナーについて ②総会資料案について ③プライバシーポリシーおよびサイトポリシーについて＜報告事項＞各委員会活動について

第3回役員会

日時：2022年8月3日(水)16:30～17:40 (オンライン)
＜出席者＞池添、今野、遠藤、大川、鎌塚、竹鼻、松枝、三森(記録：今野)
＜協議事項＞①2022年度総会、養成教育フォーラム、養成教育セミナーについて ②総会資料案について＜報告事項＞各委員会活動について

第4回役員会

日時：2022年8月12日(金)10:00～11:20 (オンライン)
＜出席者＞池添、今野、遠藤、大川、亀崎、鎌塚、鈴木、竹鼻、三森(記録：亀崎)
＜協議事項＞2022年度総会、養成教育フォーラム、養成教育セミナーについて

第5回役員会

日時：2022年9月5日(月)10:00～10:40 (オンライン)
＜出席者＞池添、今野、遠藤、大川、亀崎、鎌塚、鈴木、竹鼻、松枝、三森(記録：鎌塚)
＜協議事項＞総会・講演・セミナーについて

第6回役員会

日時：2022年9月15日(木)17:00～17:40 (オンライン)
＜出席者＞池添、今野、遠藤、大川、亀崎、鎌塚、鈴木、竹鼻、松枝、三森(記録：鈴木)
＜協議事項＞①来年度の総会・講演・セミナーについて②会費について③活動報告書の形式について④会員校一覧表の掲載のあり方について

第7回役員会

日時：2023年1月8日(日)10:00～11:30 (オンライン)
＜出席者＞池添、今野、遠藤、大川、亀崎、鎌塚、鈴木、松枝、三森(記録：松枝)
＜協議事項＞①臨時総会および来年度総会について②理事選出選挙について＜報告事項＞各委員会活動について (庶務 三森寧子)

**** 事務局からのお知らせ ****

4月になりましたら、会員校様へ「評議員の登録」や「基本調査」のお願いをさせていただきます。
2023年度のみ会費請求はありません。何卒宜しくお願い申し上げます。

(文責 遠藤伸子)

養護教諭関係団体連絡会報告

養護教諭関係団体連絡会は、「養護教諭の養成・採用・研修等に関する施策の提案と実現に向けた取り組みを行う」ことを目的とし、平成27年に組織された団体で、令和5年までは本会会長が副会長を務めています。活動としては、構成団体が協力し行う調査等の情報収集や各種課題についての協議、その結果、整理した要望などを文部科学大臣に提出するなどを行っています。2022年に開催された「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議」では、養護教諭側を代表する委員の一人として、養護教諭関係連絡会会長が参加しました。今号のニューズレターにも、その様子が報告されていますので、ご一読ください。(会長 遠藤伸子)

会計より

新型コロナウイルスの感染状況は落ち着かないまま、2023年を迎えることになりました。オンラインの方法も慣れてきましたが、Withコロナでできることを模索する年でもありました。

本協議会の活動においても、オンラインまたは対面を選択する等、状況をみながら取り組んでいます。養護教諭養成教育に携わる会員校の皆様も同様にご推察いたします。運営について模索しながらチャレンジする活動が実施できるよう、会計として取り組んで参ります。

引き続き、ご協力よろしくお願ひします。
(会計担当：松枝睦美)

編集後記

臨時総会の報告やFD委員会のワークショップのご案内などメールリングリストの活用が続きました。オンライン開催の総会資料もデジタル化され、ほんの数年前に比べて紙の出番がぐっと少なくなった気がします。即時性のある電子媒体による情報伝達と、記録・保管性のある紙媒体のそれぞれのよさをうまく使い分けていければと思います。
(亀崎路子 鈴木裕子)

日本養護教諭養成大学協議会

<http://www.j-yogo.jp/>



【事務局】女子栄養大学

TEL&FAX：049-282-3609 (事務局)

Mail：yogojimu@j-yogo.jp